海外研修　様式第２号

2026 年　3 月　30 日

武蔵野美術大学　学長　殿

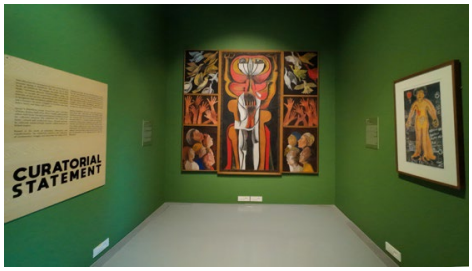
海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	山本麻璃絵	所属	クリエイティブイノベーション学科研究室
		職位	助教

研究課題	アフリカ大陸の現代美術と考古美術と滝
研究先機関	南アフリカ：ツァイツ・アフリカ現代美術館、アパルトヘイト博物館他 ジンバブエ・ザンビア：ヴィクトリアの滝 エジプト：大エジプト博物館、エジプト考古学博物館、国立文明博物館他
主な滞在地 （国・都市名）	南アフリカ共和国（ケープタウン・ヨハネスブルグ） ジンバブエ（ヴィクトリアフォールズ）ザンビア（リビングストン） エジプト（カイロ）
渡航日程	2026 年 2 月 13 日　～　2026 年　3 月 13 日（ 29 日間）
研究目的・理由	ヨーロッパやアメリカ、西洋中心に構築されてきた美術史に対し、アフリカ大陸の美術はしばしば周縁的・断片的にしか扱われてこなかった。 アフリカ大陸初の公共現代美術館であるツァイツ・アフリカ現代美術館、植民地時代の西洋中心的な命名の名残といえるヴィクトリアの滝、古代のエジプト文明の彫刻を含め、アフリカ地域と美術、歴史についてのリサーチを行う。
研究成果発表予定 （展覧会、著書、論文発表等）	今後の作品制作で発表予定。

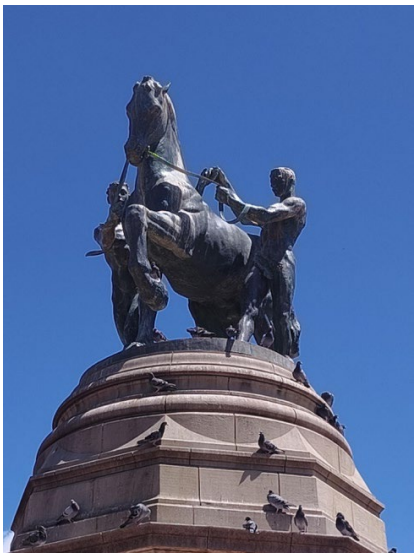
3 研究内容	今回の研修の目的は、南アフリカに 2017 年に開館したアフリカ大陸初の公共現代美術館であるツァイツ・アフリカ現代美術館(Zeitz Museum of Contemporary Art Africa)を皮切りに、アフリカ大陸の風土、エジプトの古代の彫刻群をリサーチすることで、アフリカ大陸を縦断しながら古代から現代、欧米中心に構築された美術史とは異なる美術の文脈についてリサーチする事である。 南アフリカでの現代の美術表現は、黒人、奴隷、貧困、移民、ユダヤ、アパルトヘイト、都市と自然の伝統、LGBTQ といった重い歴史や、根深い問題がテーマとなる事が多く、アイデンティティの問いが中心になっていた。ツァイツ・アフリカ現代美術館では、7 つもの企画展が行われていた。 この美術館の大きい特徴として、一般的なホワイトキューブとは異なり展示室ごとに壁面に色があった。この色のついた展示空間は、作品を中立的に見せるための「無色の背景」ではなく、むしろ作品と空間が相互に影響し合う環境として機能している。そこからは、欧米で構築された美術の枠組みに乗るのではなく、アフリカにおける色彩に対する感性、身体性、文脈性を尊重しようとする姿勢が感じられた。(現地でまざまざ体験したが、アフリカの日差しはやっぱり鋭く、それにより視界の見え方がとても鮮やかだった。) 色彩のある壁面の中では、モノクロームのアフリカ人のポートレートが際立ち、人物の存在感や美しさがより強く感じられた。  \\ ツァイツ・アフリカ現代美術館、展示風景 ツァイツ・アフリカ現代美術館外観 穀物サイロが美術館にリノベーションされた。アフリカの空は青い

3 研究内容	南アフリカ博物館(Iziko South African Museum) サン族のロックアートが多く展示されていた。台座はここでも白くない 紀元前のロックアートがたくさん並ぶ中に、流れを汲む近代の作品も展示されている 石斧が躍動的に展示されている

人種差別についてのポップなイラストによるパネル
軽やかな表現でありながら、南アフリカの歴史に根ざした切実な問題意識が伝わってきた

南アフリカ国立美術館と南アフリカ博物館の間にある、Rose Garden 中心にあるブロンズ彫刻が面白かった。西洋美術においてよく見られる、武装した英雄や権力者が馬に跨るような権威的・支配的な騎馬像ではなく、この作品では馬を挟むように二人の裸の男性が配置され、それぞれが馬を制御しようとしている。

人間が動物を一方的に支配する関係でなく、お互いに力の拮抗があること、自分達も動物と同じように労働力であったということを示しているようにも感じられた。騎馬像という西洋的なフォーマットを参照しつつも、そこからずらす事で、西洋とは異なるアフリカの歴史的・文化的な文脈を意識的に押し出しているように感じられた。



台座の高さは騎馬像的

ジンバブエは国名の由来がグレート・ジンバブエ、ショナ語で「石の家」という。国名に石の由来を持っているだけあり、ジンバブエは彫刻の素材でもよく用いられる御影石の名産地であり、20 世紀以降ショナ彫刻と呼ばれる石彫の文化が発展した国である。土産物品として小型の石彫作品が流通しており、街中には露店での商売が主に行われていた。

興味深かったのは、その商売の延長で路上やガソリンスタンド、街中の至る所で販売を前提としていない、大型の石彫作品がボコボコと展示されていた事である。土産物品は売れやすいからであろうが、動物をモチーフにしたものが大半だったが、こうした屋外展示では人物をモチーフにした作品が多く目立っていた。

ガソリンスタンドの脇にて

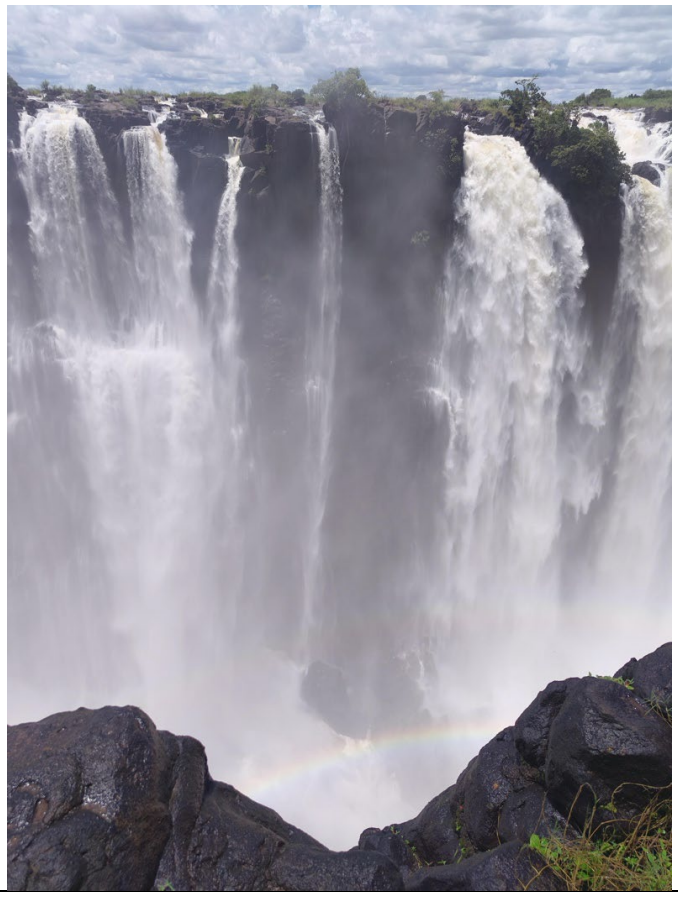
屋外ギャラリー

土産物売り

ヴィクトリアの滝の入口付近に設置された看板には、「MOSI-OA-TUNYA」と「Victoria Falls」という二つの名称が併記されており、現地名が先に記載されていた。19 世紀にイギリスの探検家によって付けられた名称よりも、本来の呼称を前面に出そうとする意思がうかがえる。一方で英語名も併存していることから、観光や国際的な認知との関係の中で、両者が折り合いをつける形で現在の表記が成立していると考えられる

ジンバブエ側

ザンビア側。文字こそ小さいが現地名が先である



古代の遺物のとにかく多いエジプトは、近年その遺物の整理と、展示の再編が行われている。これまでエジプト考古学博物館(The Egyptian Museum)だけでは展示しきれておらず、展示室も混沌とした収蔵庫状態だった。2021年に国立エジプト文明博物館(National Museum of Egyptian civilization)が、2025年に大エジプト博物館(Grand Egyptian Museum)が開館し、それぞれに収蔵品が移された。ファラオのミイラの移送などは、国家プロジェクト「ファラオの黄金のパレード」として当時話題になった。

国立エジプト文明博物館外観

国立文明博物館のメインは、前述したファラオのミイラである。考古学博物館の時はさほど広くない空間に多くのミイラが集中的に展示されていたが、新しい博物館ではミイラ展示室は墳墓を想起させる地下に設けられている。それぞれのファラオは工夫された仕切りによって個室状で配され、大判の真鍮製キャプションには、その人物の情報や生前の功績が丁寧に記載されていた。

一般にエジプトの展示施設などでは、監視員が私的な時間を過ごしている様子がしばしば見受けられる。(スマホで動画を見ている、テレビ通話でおしゃべりをしている、寝ている、ゴロゴロしている、など。)ところがここの監視員はスーツを着用し、撮影禁止を繰り返し呼びかけ、鑑賞者の振る舞いにもきちんと目を光らせている。実際、少しはしゃいだ来館者達が強めに注意されている場面にも遭遇した。展示の構成だけでなく、緊張感のある空気を含め、ファラオに対する敬意が強く払われているように感じられた。

ミイラ室に入っていく入り口では映像が投影されていた。ここから先は厳格な空間

大エジプト博物館 では、その圧倒的な空間規模によって、従来のエジプト考古学博物館では実現が難しかった展示構成が可能になっている。とりわけ、年代ごとに整理された展示は視認性が高く、エジプトの長い歴史の流れを追いやすいものとなっていた。

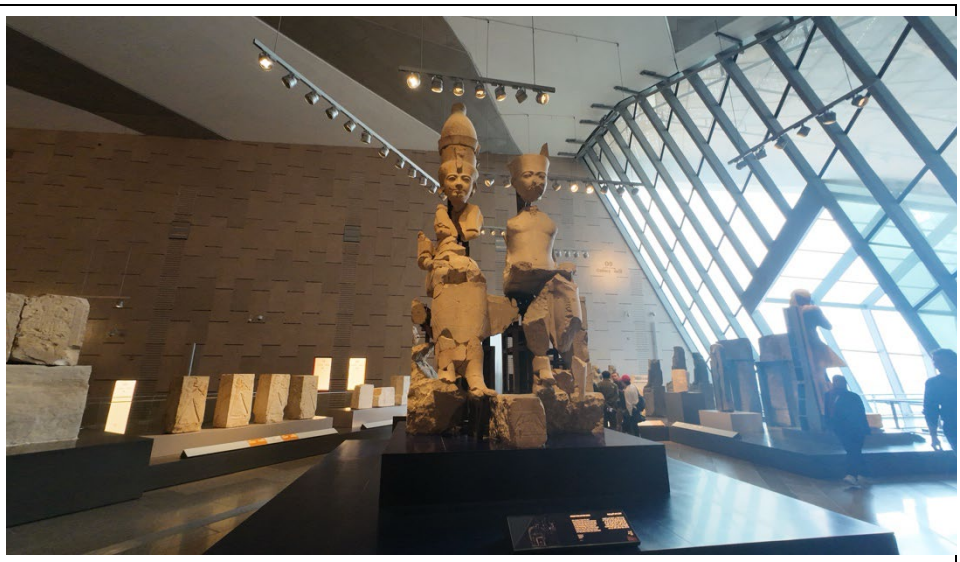
また、視覚障害者のために触れることのできる模型が設置されている点も印象的だった。ただし、展示全体の物量と比較するとその数は限られており、十分とは言い難い側面も感じられた。

さらに特筆すべきは、ツタンカーメンに関する展示の圧倒的な点数である。副葬品のひとつひとつが丁寧に並べられ、その総量は一度では把握しきれないほどであった。断片的に見られがちだった遺物群がここでは一体として提示され、ひとりの王の死後の世界観までもが空間全体を通して立ち上がってくるように感じられる。

こうした遺物が残されている背景には、この王の墓が比較的良好な状態で発見されたという事情がある。一方で、多くのファラオの墓は盗掘を受けており、同様の規模で副葬品が残る例はむしろ例外的である。この点を踏まえると、本展示は単なる充実度を超えて、歴史的偶然の上に成り立つ貴重な記録ともいえる。

大エジプト博物館外観

視覚障害者用の模型。樹脂製が基本だがツタンカーメンの黄金マスクのみブロンズ製だった



古代の遺物を現代のアクリルで補う展示方法が秀逸だった

母校のカイロ日本人学校で全校生徒に対して講話を行った

昔はグラウンドからピラミッドが見えたが、建物が建ってしまい見られなくなっていた

大学授業における 研究成果の還元	研究から着想を得て制作した作品による展覧会での還元。

研究日程（全滞在期間）

出発日 （現地時間）	出発地 （国・都市名）	到着日 （現地時間）	到着地 （国・都市名）	研究内容等	滞在 日数
2/13	日本・羽田	2/13	南アフリカ・ケープタウン	ツァイツ現代アフリカ美術館、南アフリカ国立美術館、南アフリカ博物館、他	5 日
2/18	南アフリカ・ケープタウン	2/18	南アフリカ・ヨハネスブルグ	人類のゆりかご、マロペン、ステルクフォンテイン洞窟、アパルトヘイト博物館、他	3 日
2/21	南アフリカ・ヨハネスブルグ	2/21	ジンバブエ・ヴィクトリアフォールズ	ヴィクトリアの滝、屋外の石彫展	4 日
2/23	ジンバブエ・ヴィクトリアフォールズ	2/23	ザンビア・リビングストン	ヴィクトリアの滝、	1 日
2/25	ジンバブエ・ヴィクトリアフォールズ	2/25	南アフリカ・ヨハネスブルグ		移動日
2/25	南アフリカ・ヨハネスブルグ	2/26	エジプト・カイロ	大エジプト博物館、エジプト考古学博物館、国立文明博物館、サッカラ遺跡群、カイロ日本人学校、他	14 日
3/11	エジプト・カイロ	3/13	東京・成田		移動日
備考	中東情勢の影響により、帰国日が当初提出した海外研修計画から変更となりました。				

以上

※　欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。
※　その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。